

# 明るく気持ちよくおかあさんみたいな存在で

～ボランティア ひまわり～

西谷にある障害者支援施設 希望の家 グリーンホーム サンホームには、重度や軽度の身体の障害をもつ方々が入所されています。そこへ月に一度、第二週の金曜日に、宝塚市内やその周辺地域から11人の「おかあさん」が集まってきました。「利用者さんから、『ひまわりさん、次はいつ来るの?』と聞かれます。顔を見ると安心できる、「おかあさん」みたいな存在なんです」とスタッフの筒井さんは話します。

今年で37年になるボランティア ひまわりのみなさんは、入所者さんが快適な毎日を過ごせるように、ズボンの裾上げや靴下の名入れなど繕い物のほか、創作活動もサポートされています。  
刺繍やビーズ織りの作品を、要望に沿ってバッグやクッション、ストラップなどに仕上げたり、かたちを整えたりしています。「少しでも役に立てたら」、「いいものを作ろう」と、アイデアが飛び交います。  
明るい陽射しの中で気持ちよく活動されています。あなたも「楽しくお手伝いしてみませんか」。



月二回、第一・第三火曜日 逆瀬川の آپピア1の3Fでバザー品をスタッフが販売しています。



スウェーデン刺繍を仕上げたトートバッグをもって。「萬代先生(創設者)のおかげで、ずっと続けさせていただいてありがとうございます。」(下段中央が代表の杉本俊子さん)



グループを立ち上げた近藤充子さん。「家族や自分の家のように」希望の家を思い、活動されています。



利用者さんの創作活動。ビーズ織り。



一针丁丁寧に作業中。ひまわりさんもサポート。



千支シリーズのストラップ。一日かけて織ってます。

## メンバー募集

一緒に雑巾を縫ったり、お話するだけでもOK。(JR武田尾駅までは施設から送迎バスで約10分。)

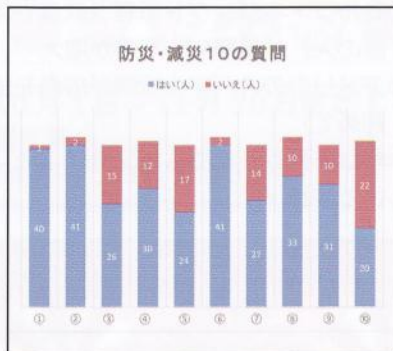
## 「防災・減災取り組み展キャラバン」(9/3～9/27)にて

『防災・減災、10の質問』アンケートを実施しました。

①の行動が思いつくという人の比率が一番高かったのは心強いばかりです。逆に⑤の家具転倒防止ができていないと身の危険は高まります。⑩が少ないのは、情報の出し手側の問題もあるのではないのでしょうか。

阪神・淡路大震災からこの1月で22年になります。“決してあきらめない”と誓い合った日々を思い出します。大きな被害の記憶を風化してはならないと、いくつものモニュメントが作られ、忘れないための行事が続いています。

大切なのは、私たち一人ひとりの心の中に、いつやってくるかわからない災害への正しいおそれと備えをもつこと、そして、自分の身近な人々とつながっておくことではないのでしょうか。



問い	yes	no
①	40	1
②	41	2
③	26	15
④	30	12
⑤	24	17
⑥	41	2
⑦	27	14
⑧	33	10
⑨	31	10
⑩	20	22

### ～アンケート内容～

#### ★安全確保～避難

- ①今、ここで地震が起こったら、身の安全を確保するために取るべき行動を1つ以上思いつきますか?
- ②あなたの地域の指定避難所を知っていますか?
- ③避難するときの服装について留意点を知っていますか?
- ④家族との連絡方法・集合場所などを家族内で話し合っていますか?

#### ★備え

- ⑤あなたの住居の寝室やリビングなどに、家具の転倒防止又はガラスの飛散防止を施していますか?
- ⑥懐中電灯・携帯ラジオは決めた場所にありますか?
- ⑦消火に対する備えを何かしていますか?
- ⑧食料などの備蓄品を用意していますか?
- ⑨「宝塚市防災マップ」はすぐに取り出せる場所においていますか?
- ⑩「宝塚市安心メール」の登録をしていますか?